

姉妹・友好都市

SISTER CITIES NEWS

ニュース

協会報

第 21 号

平成 5 年 10 月 1 日 発行

編集・発行

茨木市国際親善都市協会



公演で「さくら」を歌うフィフス・アベニュー

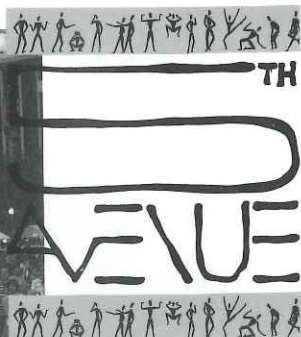
目次

- フィフス・アベニュー、コンサートで熱演…………… P 2
- 茨木市少年サッカーチームUSA杯参加…………… P 3
- ミ市市民と交流…………… P 4・P 5
- ミネソタ州日本語村カウンセラーの報告…………… P 6
- 市民訪問団5月の訪中、安慶市代表団来茨…………… P 7
- 秋の行事のご案内、内海町とのソフトボール交流、寄付紹介…………… P 8

フィフス・アベニュー ^{3回の}コンサートで熱演



花束をうけとるメンバー達



茨木フェスティバルで熱唱

7月30日から8月5日まで、茨木市制施行45周年記念行事の一環として、ミネアポリス市から「フィフス・アベニュー」という音楽グループが来茨しました。同グループは1987年4月に結成された男性5人のアカペラ・グループで、アメリカではいくつかの「アーティスト賞」を受賞している優秀なグループです。

茨木市では市長・議長を表敬訪問し、茨木フェスティバル、市民総合センター（クリエイトセンター）で公演を行い、市内見学では、西河原市民プールや中央図書館を訪れ、納涼茶会にも参加しました。また、ホストファミリーと共に清水寺や平等院鳳凰堂等を見学するなど、市民の人達と活発な交流を展開しました。

特に、7月31日と8月1日に開催された茨木フェスティバルの野外ステージでは彼等のハーモニーに引き寄せられるかのように沢山の観衆が集まりました。また、8月4日のクリエイトセンターでの公演では、メンバー5人の声とパーカッションがおりなす素晴らしいハーモニーのオリジナル曲や、「マイ・ガール」等のヒット曲、アンコール曲として日本語で「さくら」を聞かせてくれるなど、市民を魅了しました。

「さくら」については茨木市民親善訪問団員が

アメリカへ持って行き、アメリカで練習し、日本で完成させた曲で、「この曲には敬意を払って歌いたい」と滞在中も熱心に練習していただけに観衆の惜しめない拍手に満足していました。

メンバーにリーダーを決めずお互いに助け合い決められた役割をはたすようにしていることからもうかがわれる彼等の活動姿勢は、まさに“ハーモニー”であり、そのハーモニーは茨木市民と姉妹・友好都市市民の将来を示唆するようなどともすばらしいひびきでした。



中央図書館見学



USA杯へ

茨木市少年サッカーチーム

5回目の挑戦

7月13日、運命のときがやってきた。ホストチームであるミネアポリス・ユナイテッド・レイカーズとの対戦です。

前日、茨木チームはボン・エア・サンダーに0対3で負け、残りチームのレイカーズとセレナが引き分けたため、茨木チームはレイカーズに勝たなければ決勝トーナメントに進出できません。

“How are You?”

私がレイカーズの選手たちに声をかけると

“I'm excited!”

と、少しうわずった声が返ってきます。ホストファミリーも幾分顔が紅潮しています。

「遊びは遊び、勝負は勝負」

そんな相手チームの意気込みがひしひしと伝わってきます。

——茨木チームは市内の6中学校の1、2年生からなる混成チーム。練習は出発までに4回。7月10日、大阪を出発し、約16時間後アメリカ合衆国ミネアポリス市に到着。7月11日、12日とも、時差ボケと環境の変化のため、体調不十分。

実力は五分と五分。茨木チームがこの試合に負ければ全敗の可能性もでてきます。

ついに試合が始まりました。

前半、左サイドから石川選手が2本のシュートを決め、2対0と茨木チームがリード。これで楽

ボン・エア・サンダーとの試合



ヘレナの選手達と



勝かと思いきや、後半1点を入れられ1点差に詰め寄られ、再三、同点のピンチ。結局、上沼選手がダメ押しのシュートを決め3対1で試合終了。

“We must play a Big Game!”

試合前にだれかが言ったことばにふさわしい試合でした。

翌7月14日、対ヘレナ戦に5対1で勝ち、決勝トーナメントに進出。1回戦で英国の強豪クイーン・エリザベスに善戦むなしく0対4で敗退。こうしてサッカー少年たちの夏は終わりました。

一行は7月18日ロスアンゼルススのディズニールンドを楽しんだ後、20日に無事帰国しました。

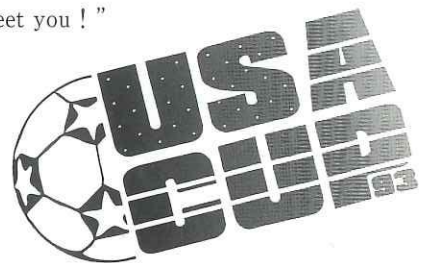
この11日間の体験は少年達の一生の貴重な思い出になるに違いありません。

メトロドームでの興奮と歓喜の渦巻くオリンピック形式のUSA杯の開会式。美しく芝の整備された35面のサッカー場を持つナショナル・スポーツ・センター。見渡せば、目の前をさえぎるものではなくいつも地平線が見渡せます。

“Hello!” “How are you?”

“Nice to meet you!”

の声がだれか
れなしに飛び
かう陽気な国
アメリカを肌
身で感じた楽
しい毎日でした。



Minneapolis ミネアポリス市民と交流

ホームステイ・サマーキャンプetc.



海外旅行初体験

茨木 和子

ホームステイの朝、大島家の孫のニコ君と連れ立って、芝生と花に囲まれた住宅地を公園まで散歩し、ゆったりとしたさわやかな朝のひと刻を楽しみました。

前日のダウンタウンの超近代的な景観と、この何処か懐かしさを感じる住宅街の佇まいを見て、どちらも、其処に住む人々の温かさや活力に繋がっているのかと、改めてこの街の豊かさ、街づくりの見事さに感心してしまいました。

「外国はテレビで知る主義」を通してきた私でしたが、心から参加して良かったと思いました。

平成5年7月20日、大勢の人に見送られ、茨木市民親善訪問団26名は飛行機で約16時間かかるアメリカの姉妹都市・ミネアポリス市へ向けて出発しました。

到着の次の日は、市庁舎で市長表敬訪問をした後、徒歩でダウンタウンを散策。さまざまな形の高層ビルの間を張り巡らされたスカイウェイ、近代的な図書館など美しい街並を見学しました。午後からもミネアポリス市西部を見学した後、いよいよホームステイをさせてもらうそれぞれのホストファミリーとの対面場所へ。訪問団員達は先に待っていていたホストファミリーと緊張気味の笑顔で挨拶し、それぞれの家へ向かいました。

2日目は、ミネアポリス市と一緒に双子都市と呼ばれ、近代的なミネアポリス市と対照的に、伝統的な建物の多い隣のセントポール市を見学。州議事堂や、歴史資料館などを訪れました。



翌日からは、成人と青少年は別行動となり、成人はホストファミリーとのひとときを過ごし、観光だけの旅とは違った思い出をつくりました。

一方、青少年は、ミ市近郊にある雄大な緑の森と芝生、美しい湖のあるオジケタキャンプ場で5泊6日のキャンプ生活を体験しました。キャンプ場では車で30分程の川でカヌーをしたり、芝生の広場でキャンプ場のカウンセラーとバレーボールの試合をしたり、英語の歌、日本の歌の教えあいなどをして交流を深めました。24日の晩は訪問団がキャンプ場食堂でピラフを作ることになり、カリフォルニア米を使って悪戦苦闘した結果、2時間程かかりましたが、美味しいと好評を得ました。25日からは、アメリカの子供達と一緒にキャビンで寝泊まりし、マシュマロクッキー並べの世界記録にも挑戦しました。

最初は言葉が通じず、アメリカでのキャンプにとまどっていた団員達も、ゆったりとしたプログラムを楽しんでいるうちに、言葉の壁を越えた交流をすることができ、キャンプ場を去るときは涙の別れとなりました。このキャンプの体験は、彼らの忘れられない思い出になることでしょう。



楽しかったアメリカ

太田中1年 宮本 奏子

この旅行に参加して本当に良かったと思います。中学一年生でアメリカは遠すぎたかもしれませんが元気に行っていました。ホームステイは最初は緊張しましたが日本語や折紙、綾取りを教えてあげると言葉は通じなくても身振り手振りでわかってくれようとしてくれてすごく嬉しかったです。

キャンプも初めは全然なじめませんでしたが交流していくにつれて一人、二人と友達ができ歌を教えてもらったり、教えてあげたりと、もう少しいたいと思う程楽しかったです。

キャンプの食堂



世界記録に挑戦



芝生の広場で

ミネソタ州日本語村カウンセラーの報告

日本語村は大自然の中にありました。青空の日は殊に美しく、近くにある湖も輝いていました。周辺に山が無いので空は広く、近く感じられました。夜になると、木々のざわめきの中で、空一杯の星が降ってくるような気がしました。

子供達と、その様な自然の中で生活を共にし、毎日驚くことばかりでした。初めは大勢のアメリカの子供を前にして、途方に暮れてしまいましたが、私が一生懸命クラスの用意をすると、子供も興味を示してくれるので徐々に“やりがい”を感じるようになり、楽しくなりました。様々な子供がいたけど、子供はやはりかわいかったです。私は日本語村で、校長先生をはじめ多くの素晴らしいスタッフに出会えて良かったと思います。私が頑張ることができたのも、いつも誰かが私を支えてくれたからでした。楽しかったことも、苦しかったことも、全ていい思い出です。この夏の経験は、私にとってかけがえのないものです。(鈴木稚英)

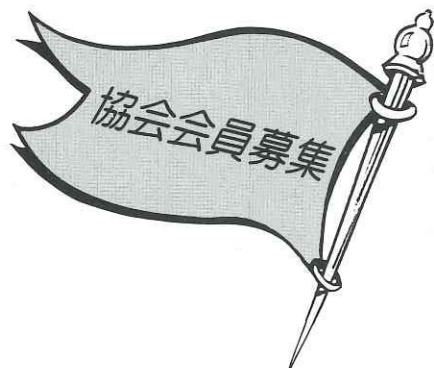


茶の湯の指導 (山下さん)



キャンプの子供と (鈴木さん)

「森の池」での夏は、いろいろなことがありすぎて、とても総括することはできません。「森の池」での体験は、初めてのことばかりで、全てが素晴らしい体験でした。私達カウンセラーは、小さい会話のクラスで日本語を教えたり、クラブ活動の時間に、書道、茶の湯、日本の料理、日本の遊び、着物の着付などを教えました。その他にも夜のプログラムなど朝から夜まで子供達と一緒にいるのですが、私が一番印象に残っているのはやはり、一人で教えた書道のクラブ活動です。子供達はすぐくまじめに書道に取り組み、それは、私にとってはとても驚きでした。彼らは、日本人の子供に負けにくいくらい上手ですし、真剣でした。一番感動したのは、子供達が堅めの消しゴムを使って彼等の名前の印鑑を作れたことです。ほんの少ししか紹介できなくてもとても残念ですが、「森の池」は本当に日本のことを大事にしている素晴らしいキャンプでした。(山下智子)

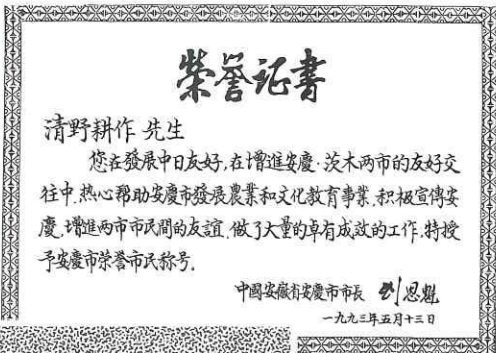


協会設立13年目を迎え、ますますの発展を目指す本協会では国際交流に興味のある方の入会を心からおまちしています。会員には、協会報や会の催す交流行事のご案内をいたします。

〈年会費〉 個人会員 (一般) 2,000円
(学生) 1,000円

団体・法人会員 一口 5,000円

〈申込先〉 協会事務局 (市役所 3 階自治振興課
国際交流係 ☎22-8121 内線2143)



中国訪問 都市建設視察団

プラタナスの並木は、どこまでも続くと思われました。取り留めもなく眺める車窓の風景は、エンドレステープのように、果てることなく流れ続くように感じられました。

合肥を後にして、バスに揺られること3時間余り、私たち訪問団一行28人は、こうして安慶市に到着しました。

雨に煙る振風塔の狭い塔内には、迷路のような階段が刻まれています。とても、案内なしで登れたものではありません。今にも折れそうな手すりにつかまり、足を滑らせ、背をかがめ、やっとの思いでたどり着いた頂部には、長江を渡る風が吹き付け、安慶市のシンボルは、文字どおり、風に揺れました。

残念ながら、今回は、2日間という短期滞在であつたうえ、途中、雨にたたられたので、予定変更を余儀なくされましたが、曲技鑑賞や、小学校訪問などもさせていただきました。また、市政府の特別の計らいで、現在、拡張整備中の空港や経済開発区の建設現場を目の当たりにすることができましたが、安慶市の経済発展に懸ける熱意の大きさを強く感じました。

一清野夫妻 安慶市の名誉市民に一

今回の訪問の際、茨木市・安慶市友好都市委員長である清野耕作氏とマリ子夫人に対し「安慶市名誉市民」の称号が授与されました。これは、ご夫妻が、永年にわたり、安慶市の農業・文化・教育事業に貢献されたことを称えたものです。

安慶市代表団 都市建設の視察

梅雨空の下、顧国^{こくわい}頼安慶市副市長を団長とする「都市建設視察団」5名が6月21日～27日まで本市を訪れました。今、安慶市では、都市基盤整備に取り組むとともに、経済技術開発区を建設中で、本市の都市施設の視察と都市建設の理解を深めるため来茨されたものです。訪問団一行は、蒸し暑い中、下水道施設、西河原市民プールなど市内の主要施設を精力的に視察されました。帰国時、顧団長は茨木市の印象を、「非常に美しい街であり、

市民の方々も非常に親切です。最新設備を有する西河原市民プールのような施設を近い将来安慶市にも是非建設できるよう努力したい。」と述べられ、その澄んだ瞳の輝きは安慶市の将来を示唆しているように思われました。



地下駐車場の視察



西河原市民プールで

秋の行事のご案内

今年の秋は、11月3日の茨木市制施行45周年記念式典を中心に国際交流関係の行事が目白押しです。

先ず、10月にはミネアポリスから国際交流員が来茨し、半年間にわたって、主として市立中学校で英語指導を行います。

同じく10月には、安慶市から曲技団一行26人が来茨し、市民会館大ホールで16日、17日とそれぞれ2回ずつの公演を行います。柔らかな体をいかした「グラスの曲芸」、スリル一杯の「椅子のはしご」など伝統の技を生る迫力でぜひご覧下さい。

11月に入ると、市制施行45周年の記念式典にミネアポリス市からは市民交流の窓口になっている文化協会の会員達が、安慶市からは友好代表団、そして、内海町からは町長と議長が来茨の予定になっています。

11月7日には、恒例となった10回目の英語スピーチ大会が福祉文化会館文化ホールで開催されます。

中学生は暗唱文、高校生は自由課題のスピーチです。皆様お誘い合わせのうえご来場下さい。

最後に、内海町への訪問団のご案内です。11月9日と10日出発の1泊旅行で、2団編成で訪問し、寒霞溪の紅葉をはじめ、小説「二十四の瞳」の舞台になった岬の分教場などを観光する予定です。現在、参加者募集中ですので、希望者は協会事務局までお申込下さい。

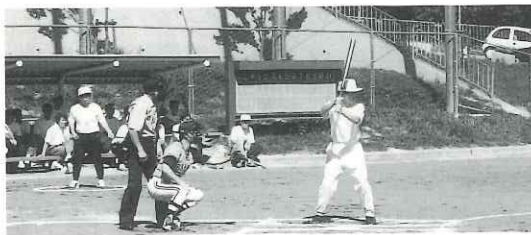


第9回英語スピーチ大会

寄付

本市の国際交流事業の推進のためにと次の方々から温かいご寄付をいただきました。ご厚意に心からお礼申し上げます。(5月～10月、敬称略)

- 〈市へ〉 7月 国際ゴルフ株式会社 (100万円)
- 8月 (宗) 辯天宗冥應寺 (120万円)



内海町「消防団」とのソフトボール交流

さわやかな秋晴れの中、9月5日、姉妹都市市内のうま海町苗羽分団と茨木分団との「ソフトボール」の親善試合が、忍頂寺スポーツ公園グラウンドで行われました。

さすがに消防団員の皆さんだけに、ホースをバットに持ち替え、親善試合とはいえ、パワーとスピードあふれる好試合が展開され、両チームとも日頃の鍛練の成果を遺憾なく発揮されました。

結果は？。真剣な中にも、終始なごやかな雰囲気です。試合が進み、試合終了後の両チーム選手達のにこやかな笑顔が印象的でした。

姉妹都市活動室

国際感覚と英語力の向上を目指して、毎月第1木曜日(午前10時～)と第3土曜日(午後2時～)に外国人ゲストを迎えての講演や英会話レッスンなどを行っています。気軽にご参加下さい。

- 〈会費〉 正会員 2,000円(18歳以上)
- 準会員 1,000円(中・高校生)

青少年活動室

青少年活動室に参加して、外国の友達をつくりませんか。毎月原則として第2日曜日の午後2時から、福祉文化会館で中・高校生を中心に、英語の歌やゲーム、ハロウィーン、感謝祭、クリスマスパーティー、バレンタインなど季節のイベントを楽しみながら英語に親しみをもとうと活動中です。一度遊びに来て下さい。会費は無料です。